



ラックマウント サーバ管理

- [ラックマウント サーバ管理](#) (1 ページ)
- [ラックマウント サーバの削除および解放に関するガイドライン](#) (2 ページ)
- [予期しないサーバ電力変更を回避するための推奨事項](#) (3 ページ)
- [ラックマウント サーバのブート](#) (4 ページ)
- [ラックマウント サーバのシャットダウン](#) (5 ページ)
- [ラックマウント サーバの出荷時のデフォルト設定へのリセット](#) (6 ページ)
- [ラックマウント サーバの電源再投入](#) (8 ページ)
- [ラックマウント サーバのハードリセットの実行](#) (8 ページ)
- [ラックマウント サーバの認識](#) (9 ページ)
- [ラックマウント サーバの解放](#) (10 ページ)
- [ラックマウント サーバの番号付け直し](#) (11 ページ)
- [ラックマウント サーバの削除](#) (13 ページ)
- [ラックマウント サーバのロケータ LED の電源投入](#) (13 ページ)
- [ラックマウント サーバのロケータ LED の電源切断](#) (14 ページ)
- [ラックマウント サーバの CMOS のリセット](#) (14 ページ)
- [ラックマウント サーバの CIMC のリセット](#) (15 ページ)
- [ラックマウント サーバの TPM のクリア](#) (16 ページ)
- [ラックマウント サーバのステータスの表示](#) (17 ページ)
- [ラックマウント サーバからの NMI の発行](#) (17 ページ)
- [Power Transition Log の表示](#) (18 ページ)

ラックマウント サーバ管理

Cisco UCS Manager を使用して、Cisco UCS ドメインに統合されているすべてのラックマウントサーバを管理およびモニタすることができます。電力制限を除くすべての管理およびモニタリング機能がラックマウントサーバでサポートされます。電源状態の変更など一部のラックマウントサーバ管理タスクは、サーバとサービス プロファイルの両方から行うことができます。残りの管理タスクは、サーバ上でのみ実行できます。

Cisco UCS Manager は、検出された各ラックマウントサーバに関する情報、エラー、および障害を提供します。



ヒント サポートされる Cisco UCS ラックマウントサーバと Cisco UCS Manager との統合方法については、ご使用の Cisco UCS Manager のリリースに応じた Cisco UCS C シリーズサーバ統合ガイドまたは Cisco UCS S シリーズサーバ統合ガイドを参照してください。

ラックマウントサーバの削除および解放に関するガイドライン

Cisco UCS Manager を使ってラックマウントサーバを削除するか解放するかを決定する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

ラックマウントサーバの解放

解放は、ラックマウントサーバが物理的に存在し接続されているが、一時的に設定から削除する必要がある場合に実行します。解放されたラックマウントサーバは最終的に再稼働することが予測されるので、サーバの情報部分は、将来の使用に備え、Cisco UCS Manager によって保持されます。

ラックマウントサーバの削除

削除は、ラックマウントサーバをファブリックエクステンダから接続解除して、システムから物理的に削除する（取り外す）場合に実行します。ラックマウントサーバが物理的に存在し、ファブリックエクステンダに接続しているときは、Cisco UCS Manager から削除できません。ラックマウントサーバの接続を解除した後、その設定を Cisco UCS Manager から削除できます。

削除時、管理インターフェイスは接続解除され、すべてのエントリがデータベースから削除されます。サーバは検出時に割り当てられたすべてのサーバプールから自動的に削除されます。



(注) 自動的に削除されるのは、検出時に自動的にサーバプールに追加されたサーバのみです。サーバプールに手動で追加したサーバは手動で削除する必要があります。

削除したラックマウントサーバを再び設定に追加する場合は、再接続して再度検出する必要があります。Cisco UCS Manager に再導入したサーバは新規サーバとみなされ、詳細なディスカバリプロセスが実施されます。このため、Cisco UCS Manager によって以前とは異なる新しい ID がサーバに割り当てられることがあります。

予期しないサーバ電力変更を回避するための推奨事項

サーバがサービス プロファイルに関連付けられていない場合は、サーバの物理的な [Power] または [Reset] ボタンなど、サーバの電源状態を変更するために使用可能な手段をすべて使用できます。

サーバがサービス プロファイルに関連付けられているか、サービス プロファイルに割り当てられている場合は、サーバの電源状態の変更は次の方法でのみ行う必要があります。

- Cisco UCS Manager GUI で、サーバに関連付けられたサーバまたはサービス プロファイルの [General] タブに移動し、[Actions] 領域で [Boot Server] または [Shutdown Server] を選択します。
- Cisco UCS Manager CLI で、サーバ、またはサーバに関連付けられたサービス プロファイルに対して **power up** または **power down** コマンドを使用します。



重要 電源がオフになっている関連サーバには、次のオプションのいずれも使用しないでください。

- GUI の [Reset]
- **cycle cycle-immediate** または CLI の **reset hard-reset-immediate**
- サーバの物理的な [Power] または [Reset] ボタン

現在電源がオフになっているサーバに対して、リセットまたはサイクルを実施するか、サーバの物理的な [Power] ボタンを使用すると、サーバの実際の電力状態がサービス プロファイルで必要とされる電源状態の設定と同期しなくなる可能性があります。サーバと Cisco UCS Manager 間の通信が中断したり、サービス プロファイルの設定が変更されると、Cisco UCS Manager によって、必要とされる電源の状態がサービス プロファイルからサーバに適用される場合があります。この結果予期しない電力変化が発生する可能性があります。

電源の同期に関する問題は、次に示すように予期しないサーバの再起動につながる可能性があります。

サービス プロファイルで必要とされる電源状態	現在のサーバの電源状態	通信が中断された後のサーバの電源状態
アップ	電源オフ	電源オン

サービス プロファイルで必要とされる電源状態	現在のサーバの電源状態	通信が中断された後のサーバの電源状態
ダウン	電源オン	電源オン (注) 実行中のサーバは、サービスプロファイルに必要とされる電源状態に関係なくシャットダウンされません。

ラックマウントサーバのブート

始める前に

ラックマウントサーバとサービスプロファイルを関連付けます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	指定したサービスプロファイルで組織サービスプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # power up	サービスプロファイルに関連付けられたラックマウントサーバをブートします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、ServProf34 という名前のサービスプロファイルに関連付けられたラックマウントサーバをブートし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power up
```

```
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

ラックマウントサーバのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティングシステムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフル シャットダウンシーケンスがトリガーされます。

始める前に

ラックマウントサーバとサービスプロファイルを関連付けます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	指定したサービスプロファイルで組織サービスプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # power down	サービスプロファイルに関連付けられたラックマウントサーバをシャットダウンします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ServProf34 という名前のサービスプロファイルに関連付けられたラックマウントサーバをシャットダウンし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power down
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

ラックマウントサーバの出荷時のデフォルト設定へのリセット

ラックマウントサーバを出荷時の設定にリセットできるようになりました。デフォルトでは、出荷時へのリセット操作は、ストレージドライブおよびflexflashドライブなどのストレージに影響しません。これはデータの損失を防止するためです。ただし、これらのデバイスを既知の状態にリセットすることもできます。



重要 ストレージデバイスをリセットすると、データが失われる可能性があります。

サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットする必要がある場合には、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>server-num</i>	指定したラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # reset factory-default [delete-flexflash-storage delete-storage [create-initial-storage-volumes]]	<p>サーバ設定の工場出荷時の初期状態へのリセットは、次のコマンドオプションを使用して行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • factory-default : ストレージを削除せずに、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットします。 • delete-flexflash-storage : サーバを工場出荷時の初期状態にリセットして、FlexFlash ストレージを削除します。 • delete-storage : サーバを工場出荷時の初期状態にリセットして、すべてのストレージを削除します。 • create-initial-storage-volumes : サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、すべてのディスクを初期状態に設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>重要 ストレージプロファイルを使用する場合は、create-initial-storage-volumes コマンド オプションを使用しないようにしてください。ストレージプロファイルを使用しているときに初期ボリュームを作成すると、設定エラーが発生する可能性があります。</p>
ステップ 3	UCS-A /server # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ストレージを削除せずに、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、FlexFlash ストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default delete-flexflash-storage
UCS-A /server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default delete-storage
UCS-A /server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除し、すべてのディスクを初期状態に設定して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset factory-default delete-storage create-initial-storage-volumes
UCS-A /server* # commit-buffer
```

ラックマウント サーバの電源再投入

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>server-num</i>	指定したラックマウント サーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # cycle { cycle-immediate cycle-wait }	ラックマウント サーバの電源を再投入します。 ラックマウント サーバの電源再投入をただちに開始するには、 cycle-immediate キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後に電源再投入が開始されるようスケジュールするには、 cycle-wait キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバ 2 の電源をただちに再投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # cycle cycle-immediate
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウント サーバのハード リセットの実行

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセット ライン上にパルスが送信されます。オペレーティング システムのグレースフルシャットダウンを選択できます。オペレーティング システムがグレースフル シャットダウンをサポートしていない場合は、サーバの電源を切ってから入れ直します。サーバをリセットする前に、Cisco UCS Manager にすべての管理操作を完了させるオプションでは、それらの操作がサーバのリセット前に完了する保証はありません。



(注) 電源切断状態からサーバをブートする場合は、[Reset] を使用しないでください。

この手順を使用して電源投入を続けると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、[Cancel] をクリックし、[Boot Server] アクションを選択します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>server-num</i>	指定したラックマウント サーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # reset { hard-reset-immediate hard-reset-wait }	ラックマウント サーバのハードリセットを実行します。 ラックマウント サーバのハードリセットをただちに開始するには、 hard-reset-immediate キーワードを使用します。保留中のすべての管理操作が完了した後にハードリセットが開始されるようスケジュールするには、 hard-reset-wait キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A /server # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウントサーバ2のハードリセットをただちに実行し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset hard-reset-immediate
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウント サーバの認識

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出する必要がある場合は、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスクバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# acknowledge server <i>server-num</i>	指定されたラックマウントサーバを認識します。
ステップ 2	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ラックマウントサーバ2を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# acknowledge server 2
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

ラックマウントサーバの解放

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# decommission server <i>server-num</i>	指定されたラックマウントサーバを解放します。
ステップ 2	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ラックマウントサーバ2を解放し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# decommission server 2
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

ラックマウント サーバの番号付け直し

始める前に

サーバ間でIDを交換する場合は、まず両方のサーバを解放し、サーバ解放FSMが完了するのを待ってから、番号の再設定手順に進みます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# show server inventory	サーバに関する情報を表示します。
ステップ 2	サーバ インベントリに以下が含まれていないことを確認してください。	<ul style="list-style-type: none"> 番号を付け直すラックマウントサーバ 使用する番号を持つラックマウントサーバ <p>これらのラックマウントサーバのいずれかがサーバ インベントリにリストされている場合は、これらのサーバをデコミッションします。続行前に、デコミッションFSMが完了し、ラックマウントサーバがサーバ インベントリにリストされなくなるまで待機する必要があります。これには数分かかる場合があります。</p> <p>どのサーバがデコミッションされたかを確認するには、show server decommissioned コマンドを発行します。</p>
ステップ 3	UCS-A# recommission server <i>vendor-name model-name serial-numnew-id</i>	指定したラックマウントサーバをリコミッションし、番号を付け直します。
ステップ 4	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ID2のラックマウントサーバをデコミッションし、IDを3に変更し、そのサーバをリコミッションし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# show server inventory
```

```
Server   Equipped PID Equipped VID Equipped Serial (SN) Slot Status      Ackd Memory (MB)
```

```

Ackd Cores
-----
1/1    UCSB-B200-M3 V01      FCH1532718P      Equipped      131072
  16
1/2    UCSB-B200-M3 V01      FCH153271DF      Equipped      131072
  16
1/3    UCSB-B200-M3 V01      FCH153271DL      Equipped      114688
  16
1/4    UCSB-B200-M3 V01                        Empty
1/5    UCSB-B200-M3 V01                        Empty
1/6    UCSB-B200-M3 V01                        Empty
1/7    N20-B6730-1  V01      JAF1432CFDH      Equipped      65536
  16
1/8    UCSB-B200-M3 V01                        Empty
  1    R200-1120402W V01      QCI1414A02J      N/A           49152
  12
  2    R210-2121605W V01      QCI1442AHFX      N/A           24576
  8
  4    UCSC-BSE-SFF-C200 V01    QCI1514A0J7      N/A           8192
  8

```

```

UCS-A# decommission server 2
UCS-A*# commit-buffer
UCS-A# show server decommissioned

```

```

Vendor          Model          Serial (SN) Server
-----
Cisco Systems Inc R210-2121605W QCI1442AHFX 2

```

```

UCS-A# recommission chassis "Cisco Systems Inc" "R210-2121605W" QCI1442AHFX 3
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A # show server inventory

```

```

Server Equipped PID Equipped VID Equipped Serial (SN) Slot Status      Ackd Memory (MB)
Ackd Cores
-----
1/1    UCSB-B200-M3 V01      FCH1532718P      Equipped      131072
  16
1/2    UCSB-B200-M3 V01      FCH153271DF      Equipped      131072
  16
1/3    UCSB-B200-M3 V01      FCH153271DL      Equipped      114688
  16
1/4    UCSB-B200-M3 V01                        Empty
1/5    UCSB-B200-M3 V01                        Empty
1/6    UCSB-B200-M3 V01                        Empty
1/7    N20-B6730-1  V01      JAF1432CFDH      Equipped      65536
  16
1/8    UCSB-B200-M3 V01                        Empty
  1    R200-1120402W V01      QCI1414A02J      N/A           49152
  12
  3    R210-2121605W V01      QCI1442AHFX      N/A           24576
  8
  4    UCSC-BSE-SFF-C200 V01    QCI1514A0J7      N/A           8192
  8

```

ラックマウント サーバの削除

始める前に

次の手順を実行する前に、ラックマウント サーバとファブリック エクステンダを接続している CIMC LOM ケーブルを物理的に外します。ハイ アベイラビリティ構成の場合、両方のケーブルを外します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# remove server <i>server-num</i>	指定したラックマウント サーバを削除します。
ステップ 2	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウント サーバ 4 を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# remove server 4
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

次のタスク

ラックマウント サーバを物理的に再接続する場合、Cisco UCS Manager に再検出させるために、サーバの確認応答を再び行う必要があります。

詳細については、[ラックマウント サーバの認識 \(9 ページ\)](#) を参照してください。

ラックマウント サーバのロケータ LED の電源投入

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>server-num</i>	指定したラックマウント サーバでサーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # enable locator-led	ラックマウント サーバのロケータ LED の電源を投入します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /server # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウントサーバ2のロケータ LED の電源を投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # enable locator-led
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウントサーバのロケータ LED の電源切断

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>server-num</i>	指定したラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # disable locator-led	ラックマウントサーバのロケータ LED の電源を切断します。
ステップ 3	UCS-A /server # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウントサーバ2のロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # disable locator-led
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウントサーバの CMOS のリセット

場合によっては、サーバのトラブルシューティング時に、CMOSのリセットが必要になることがあります。CMOSのリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>server-num</i>	ラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # reset-cmos	ラックマウントサーバの CMOS をリセットします。
ステップ 3	UCS-A /server # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウントサーバ2の CMOS をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # reset-cmos
UCS-A /server* # commit-buffer
UCS-A /server #
```

ラックマウントサーバの CIMC のリセット

ファームウェアの場合、サーバのトラブルシューティング時に、CIMC のリセットが必要になることがあります。CIMC のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC のリセット後、CIMC は、そのサーバで実行中のバージョンのファームウェアを使ってリブートします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>server-num</i>	指定したラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /server # scope CIMC	サーバ CIMC モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /server/CIMC # reset	ラックマウントサーバの CIMC をリセットします。
ステップ 4	UCS-A /server/CIMC # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウントサーバ2の CIMC をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2
UCS-A /server # scope CIMC
UCS-A /server/cimc # reset
UCS-A /server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /server/cimc #
```

ラックマウントサーバの TPM のクリア

TPM のサポートが含まれている Cisco UCS M4 ブレードサーバおよびラックマウントサーバでのみ、TPM をクリアできます。



注意 TPM のクリアは危険性のある操作です。OS が起動を停止することがあります。また、データを損失する可能性もあります。

始める前に

TPM が有効である必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>server-num</i>	ラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A# /server # scope tpm <i>tpm-ID</i>	指定された TPM の org TPM モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A# /server/tpm # set adminaction clear-config	TPM のクリアを指定します。
ステップ 4	UCS-A# /server/tpm # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ラックマウントサーバの TPM をクリアする方法の例を示します。

```
UCS-A# scope server 3
UCS-A# /server # scope tpm 1
UCS-A# /server/tpm # set adminaction clear-config
```



```
UCS-A# /server/tpm* # commit-buffer
```

ラックマウント サーバのステータスの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# show server status	Cisco UCS ドメイン内にあるすべてのサーバのステータスを表示します。

例

次に、Cisco UCS ドメイン内にあるすべてのサーバのステータスを表示する例を示します。番号が 1 および 2 のサーバは、ラックマウント サーバであるため、表にスロットが示されていません。

```
Server Slot  Status      Availability  Overall Status  Discovery
-----
1/1          Equipped    Unavailable   Ok               Complete
1/2          Equipped    Unavailable   Ok               Complete
1/3          Equipped    Unavailable   Ok               Complete
1/4          Empty       Unavailable   Ok               Complete
1/5          Equipped    Unavailable   Ok               Complete
1/6          Equipped    Unavailable   Ok               Complete
1/7          Empty       Unavailable   Ok               Complete
1/8          Empty       Unavailable   Ok               Complete
1            Equipped    Unavailable   Ok               Complete
2            Equipped    Unavailable   Ok               Complete
```

ラックマウント サーバからの NMI の発行

システムが応答しないままになっており、Cisco UCS Manager で、CIMC から BIOS またはオペレーティング システムに NMI（マスク不能割り込み）を発行する必要がある場合は、次の手順を実行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティング システムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server [<i>chassis-num/server-num dynamic-uuid</i>]	指定したサーバのサーバ モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt	
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

例

次に、シャーシ 2 のサーバ 4 から NMI を送信し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 2/4
UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

Power Transition Log の表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>server-num</i>	ラックマウントサーバでサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A# /chassis/server # show power-transition-log	指定したサーバの <code>computeRebootLog</code> インスタンスを表示します。

例

次に、サーバ 3 の Power Transition Log を表示する例を示します。

```
UCS-A# scope server 3
UCS-A# /chassis/server # show power-transition-log

Last 5 server reboots (Newest first):

Pwr Change Source                               Last pwr transition timestamp
-----
UCSM TURNUP                                       2016-10-28T09:35:04.498
HOST PWR TRANSITION                              2016-10-27T17:06:56.157
UCSM TURNUP                                       2016-10-27T17:06:24.734
UCSM ASSOCIATE                                    2016-10-27T17:06:24.068
UCSM SERVER DISCOVER                             2016-10-27T16:56:56.153
```